

第7回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1. 日時 平成27年3月20日（金） 13:00～14:30
2. 場所 苫小牧市職員会館304号室
3. 出席
 - (1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員（9名）
川島会長、秋山委員、岩佐委員、鹿毛委員、坂本委員、佐藤委員、伴辺委員、林委員、廣澤委員、
 - (2) 事務局（市）
福原産業経済部部長
片原産業経済部次長
商業観光課 : 池田課長、銅主査、畑山主査、安藤主事
工業労政課 : 桜田課長、大津主事

4. 概要

- (1) 開会
会長：開会宣言
事務局：挨拶
- (2) 議事
 - ① 苫小牧市中小企業実態調査報告書について
事務局：実態調査報告書の補足説明。

【質 疑】

- 委 員：アンケートの回収率28.5%はどのように考えているのか。
事務局：帯広の調査では約30%。苫小牧市は本調査の他に、約50事業の生の声を聞く「ヒアリング調査」を行っている。
- 委 員：回収率を上げるため、返送のない事業所に電話での催促をしたらどうか。
事務局：今回の対象事業者は電話番号が分からない。分かる部分は電話をしている。その結果28.4%だった。しかし、今後は回収率をどのように上げるかについては課題と考える。
- 会 長：調査結果報告書は良い資料になってきたが、他市では同じような課題があるのか、また、都市との比較について分析していただきたい。今後の課題ということをお願いしたい。

- ② 第1期苫小牧市中小企業振興審議会報告書（案）について

【質 疑】

- 委 員：創業希望者と創業した人をうまく使い分けたい。
委 員：7ページ下の「人材育成の考え方」が補助金ばかり突出しているような気がするので、下から4行目の目的に応じての後に、「各種講習会、相談会などを実施している」という文言を追記。

委員：7ページの情報発信で、組織の連携が大事という意見があった。その内容を盛り込めるか判断していただきたい。

(3) その他

会長：部会・勉強会の設置について、第2期審議会からは委員から出ていたテーマに沿った専門的な調査や検討、また、振興施策の立案を行うグループを設置して、回数にこだわらない調査会や検討会などの名称を付けて設置をしていきたい。そういった組織のたたき案を事務局にお願いしたい。

事務局：27年度の新規事業で、商工会議所と市が連携して中小企業創業サポート事業を行う計画でいる。(概要について説明。)

【委員より一言】

委員：アンケート調査等々で問題点、課題点を取り上げてきた。これをどのような形で解決していくかが、審議会の目的の一つではないかと感じている。

委員：アンケートや部会発足などもっと早くに実施して行ってほしかった。今後は、早く部会を立ち上げ実質的な活動が始まることを期待したい。

委員：審議会での意見を念頭におきながら中小企業を振興していきたい。

委員：儲からないとその地域の循環経済が成り立たないということで非常に重要な審議会だった。これからの中小企業はかなり厳しい波が襲ってくる。メンバーから外れても、この審議会に関して応援していきたいと思っている。

委員：働く女性の立場をどうやって守っていけるかという観点で、中小企業振興に参加した。働いてお金を得て循環させるということが世の中の基本。ボランティアではなく、高齢者や女性が働き、報酬をもらい社会に還元していくことが、世の中を元気づけることになるかと考えている。

委員：来年度の創業セミナーについて、創業したい人に施策の内容が届くような形で周知等をお願いしたい。

委員：苫小牧には8000を超える事業所があり、その99%が中小企業、そこに勤める方が83%もいることを初めて知った。今回まとめられた報告書が、今後行政の中で大いに活かされ、苫小牧市の中小企業が活力を持つことを期待している。

委員：青年会議所は、20代30代の経営者と準経営者のメンバーが5割6割を占めている。審議会で議論される課題を取扱うメンバーばかり。様々な活動に活かして行きたい。

会長：第2期の橋渡しができたのかなと感じている。中小企業を育てて、この苫小牧が活性化し、豊かで安心安全なまちになっていくことを

強く希望している。行政主導ではなく、中小企業の方が日々研鑽され毎日が企業の発展という意識を強く持って、企業を市民が多方面で支え、良い地域の循環を作っていく状況を作っていけたら、非常に素晴らしいまちになっていくと考える。

事務局挨拶

2年間のお礼と国の26年度補正予算について説明。

(4) 閉会